議案第65号　令和７年度鈴鹿市一般会計決算の認定について

産後ケアへの支援の状況は

○産後ケア事業委託　1,401万8,300円

質　疑　産後ケア事業の利用実績の内訳は。

答　弁　希望者全員が１人７回まで利用できる制度で、令和７年度の延べ件数は842件である。なお、内訳は宿泊型は96件、通所型は272件、訪問型は474件となっている。実人数は266人で、宿泊型は33人、通所型は98人、訪問型は170人である。



質　疑　部屋料金などの施設による料金差への対応は。

答　弁　本市の利用料は、国の減免措置を適用し他市町より安く、使いやすい状況である。施設によっては部屋代が必要となるが、料金設定は施設の経営方針による。

三重県では、県内市町において共通料金で同じサービスを受けられる集合契約に向けた調整をしており、その動向を注視していく。

市内の医療体制の整備について問う

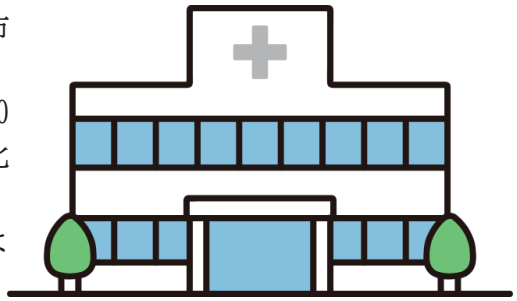
○公的病院施設設備整備費補助　１億9,600万円

質　疑　事業の成果と執行するに当たっての協議は。

答　弁　２次救急の当番日数によって、医療機器の整備に対し1/3の補助を行う事業で、鈴鹿中央病院は、がん拠点病院の役割も担っていることから、がん治療に必要な医療機器の整備について補助しており、令和７年度にリニアック(※)、今年度はダヴィンチ(※)導入に対し、それぞれ1/3を補助している。これらにより、がん治療を市内で完結できる体制につながった。

一方、鈴鹿回生病院では、本事業の5,000万円を上限に、各種検査機器の更新やＤＸ化に伴う機器整備などが行われている。

今後も市内で必要な医療が完結できるよう、検討していきたい。



※リニアック・・・放射線治療に使う医療機器で、高エネルギーのＸ線や電子線を発生させ、がん細胞に照射して治療する。
ダヴィンチ・・・外科医が遠隔操作でロボットアームを動かし、精密な手術を行うシステムで、傷が小さく、術後の早期回復が期待できる。